

薬剤部 DI ニュース

★ 解熱鎮痛薬のことで、患者さんよりよく受ける質問を Q&A 形式でまとめました★

Q1：解熱鎮痛薬はどうして胃に悪いといわれているのですか？

A1：一般的に解熱鎮痛薬といわれるものは、非ステロイド性抗炎症薬：NSAIDs です。

副作用として消化性潰瘍などが知られています。

生体組織ではその恒常性を維持するためにプロスタグランジン類：PGs が働いています。

ヒトの体では主に PGE₂ が多く存在します。NSAIDs はこの PGE₂ の生成を阻害することで鎮痛・解熱・消炎作用を発揮します。ところが PGE₂ は胃や十二指腸潰瘍の粘膜にも存在し、組織が胃酸で消化されないように保護していますので、PGE₂ の生成を阻害することは消化管粘膜の保護作用をも阻害することになります。

そのため NSAIDs を長期間のみ続けると、胃の粘膜を保護する作用が損なわれて、胃酸により潰瘍などが起こるのです。

Q2：胃を悪くしないためには、どのような工夫をしたらよいですか？

A2：NSAIDs には、腸で溶ける工夫をしたものがあります。また吸収されてはじめて効果を発揮する成分になるようにしたもの、坐薬にしたものなどがあります。

これらは胃の粘膜に直接接触して胃を荒らすことは少ないですが、血液に入りその血液が胃の血管を流れるので胃の障害が起きてしまうことがあります。

胃への影響を少しでも和らげるために食後に飲むことがすすめられています。

止むをえず空腹時にのむような時は、その前に牛乳などを飲むのもひとつの方法です。

Q3：NSAIDs によりアスピリン喘息が起こる理由を教えてください。

A3：アスピリン喘息とは、NSAIDs 投与による過敏反応をしてみられる喘息様の症状です。

発症には次の2つの説があります。

① PGE₂ が気管支にも分布しており、気管支拡張、細胞膜安定化作用を有しているため NSAIDs の PGE₂ 生成阻害作用により発症する。

② NSAIDs はアラキドン酸からロイコトリエン：LTs を生成するリポキシゲナーゼは阻害しないので、LTs の生成が優位になるために、LTC₄、LTD₄ などの強力で持続的な気管支収縮作用により発症する。

アスピリンは一般名をアセチルサリチル酸といい、正確にはピリン系の薬剤ではありません。しかし薬物アレルギーの確認の際「ピリン系」とお答えくださる方の中には、アスピリンをさしていることも多いので、可能なら薬剤名を確認するなどすると良いでしょう。

(薬剤部 荻尾)